



横浜シュタイナー学園13年目の春は、14名の9年生が旅立ちました。シュタイナー学校の9年生は激動の3月を過ごします。1年間かけて取り組んできた卒業プロジェクト発表、卒業演奏、そして、卒業オイリュトミー発表。今年は9年生保護者手作りのシルクのクライト、シュライヤーに身を包んだ生徒たちが美しく舞いきりました。

卒業に寄せて



3月18日、14名の9年生が卒業しました。式が始まる前、教室に集まった生徒たちは晴れ着に身を包み、嬉しさと寂しさ両方が入り混じったような表情でした。

幼い頃からそうしてきたように円になって立ち、朝のことばを唱えました。生徒たちがシュタイナーサークルと呼ぶ態形、一人ひとりの顔が見えます。

「私は世界を見つめる…」それぞれの声の一つになって響き始めると、私の目に彼らの幼かった姿が浮かんできました。幼い彼らが円になり朝言葉を唱える姿です。かわいらしく、でも、しっかりとした声で唱えている姿。そして、また目の前の9年生の姿。確かに時は流れ、彼らはこんなにも成長したのだと思いました。

その後、三品先生がかごを手に教室に入ってきてくれました。かごの中には、下級生が9年生一人ひとりを思い浮かべ作ってくれたコサージュが入っていました。それを三品先生からいただき胸に付けると、「いよいよ卒業式が始まる」と少し緊張した様子で入場の時が来るのを待ちました。

入学式で初めて子どもたちと会い、それから9年間、毎日毎日が充実した意味のあることばかりでした。子どもたちは生き生きと、世界に開かれた曇りのない目を輝かせながら登校してきました。

霧が丘校舎で過ごした日々が懐かしく思い出されます。

神田ひクラスは、自分の考えをはっきり述べる雰囲気の中で、何か問題が起こり話し合いをすると、次々に手が挙がり感心するような意見がたくさん出てきました。そのような話し合いは、下校前に始まることが多く「ひとみクラスは下校がいつも遅くなる」原因になりました。

さらに、リズムの時間は思いっきり身体を動かし、想像力豊かに活動する子どもたちでした。印象に残っていることの一つに、前日の美術で描いた水彩画を見ながらの会話があります。「○○みたい」「あそこに○○があるよね」と、子どもたちは楽しそうに話をしていました。さて、どんな絵を見て話していたかということ、「黄色」の絵です。どの画面も黄色ばかりでしたが、色の濃淡があって一枚一枚、それぞれの子らしい作品でした。子どもたちは澄んだ目で絵を眺め味わっていたのです。

月日は過ぎ、新しい仲間も加わり、3月18日、14名が卒業を迎えました。オイリュトミー室に並んだ生徒たちは、別れを惜しみ寂しさを感じながらも次へ進もうとしていました。

7年生で転入した麻零「いい空気だった」と話しました。「いい空気」はここにいる皆がつくりだしたものです。それぞれが苦しいことつらいこと、悩んだこともありましたが、でも、今、14名の仲間はたとえ喧嘩をしても、あきらめなければまた新たに関係を築けることを知っています。そして、お互いを尊重し合い学び合っていける生徒たちです。

高等部でも自分らしく生き生きと学校生活を送れるよう祈っています。

最後に、私は、「ひとみクラス」の生徒たちに出会い成長を見守ることができて、とても幸せでした。またいつか再会できることを楽しみにしています。

支えて下さった保護者の皆様、先生方、ありがとうございました。

(5期生・9年生担任 神田ひとみ)

卒業に寄せて *生徒編*

安食駿

色々なことがありましたが、とても楽しかったと思います。今までお世話になりました。ありがとうございました。

市村柚芽

私は、いつでもどこでも歌ってばかりいるこのクラスが大好きでした。みんなと別れるのはすごく寂しいけど、また会えた時にはみんなで合唱がしたいです。最後の一年は一番忙しかったけど最高!!に楽しい一年間でした。

海老塚侑希

ぼくは、高学年になってからの学園での毎日が、とにかく楽しくて、たくさん思い出ができました。軟らかかった体がたかくなっても、体育や体操部を続けられましたし、友だちのみんなも、こんなぼくといつもいっしょにいてくれました。ありがとうございました。

大島麻零

今回私は卒業できたことと同時に約三年間学ばせてもらった事を、そして、楽しい時間を過ごさせてもらった事を横浜シュタイナー学園に感謝しなくてはと心から思いました。このようなご縁は人生でそう何度もあるものではありません。ありがとうございました。

河辺摩周

私は「卒業」というものは9年生になり迫ってきているのは感じていましたが、自分が卒業するという実感は全然ありませんでした。しかし、卒業しました。卒業してうれしかったことや悲しかったこともあります。これらを土台にしてこれからもがんばっていきます。

志賀野木子

卒業。卒業。未だ実感がわきません。ここで過ごした9年間は長くもあり、とても短く感じます。私はこのクラスで友情関係をはじめ、沢山の事を学びました。私にとってこの横浜での学校生活は一生の宝物です。

志村星子

私は、卒業式を終えて今、横浜シュタイナー学園で学び経験したことの多さを改めて感じています。世の中で生きて行くために必要な糧を学ぶ大切な9年間でした。私は横浜シュタイナー学園の卒業生であることを幸せに思っています。

所澤在

私は9年間、この学園に通うことができるとても幸せでした。学校に行くことが楽しく毎日がとても充実していました。私たちは、みんなのつながりが強く素晴らしいクラスだったと思っています。

9年間導いて下さったひとみ先生、先生方、ありがとうございました。

高橋晴花

9年生になって、一気にみんなとの距離が近くなった気がします。私はまだ卒業するという実感が全くありませんが、これからも色々な体験をし、成長出来たらと思っています。

田幡凧子

私は、この学園で、クラスメイト、先輩、後輩と9年間過ごすことができ、本当に幸せです。優しい先生方から沢山の事を学びました。そして、友達と楽しく遊び、語り合うことも学びました。喧嘩し、仲直りすることを学びました。沢山の事を教えて下さった先生方、一緒にいてくれた生徒さん達、そして、9年間支え続けて下さった保護者の皆様、本当にありがとうございました。

福崎実紀

私はこの学園に9年間通い、この学園で学ぶということがあたりまえになっています。なので、これからは新しい学校に行くということが自分でも信じられません。今までありがとうございました。

藤岡信希

僕たち9年生は、9年間ずっと、同じクラスメイト、同じ担任の先生で過ごしてきました。ひとりひとり色々な色を持った人たちが集まったクラスです。だから、毎日が楽しく、毎日がにぎやかな日でした。この9年間は人生の宝です。

森永馨子

私はこの学園で多くを学ばせてもらい又、学びきったと思います。学問にせよ、何にせよ沢山学びました。卒業する時『まるでここは第二の我が家だ』と感じ、家を出るといのはこういう気持ちになるのかな、と少し寂しくなりました。私が学園で過ごした日々は思い出であり、初めての記憶にのこる大切な日々でした。

屋良朝照

先輩方の卒業式に出席して、まだ先のことと思っていた卒業が目の前に迫った時、進学への歓喜よりも、母校との惜別の寂しさの方が大きくなりました。9年間支えて下さった先生方、保護者の皆様、ありがとうございました。

卒業プロジェクト発表

9年生 3月3日(土)・4日(日)



「ブラックホール」



「ピアノ」



「カラクリ」



「冷戦下における宇宙開発競争」



「コーヒーをめぐる労働問題」



「茶道の魅力」



「曾祖父母の戦争」



「アイヌとカムイ」



「舞台と色彩」



「踊りとは」



「ビキニ 水爆実験」



「戦時中の暮らしと
今の暮らしの違い」



「ユダヤ人について
～その歴史と足跡～」



「古典派音楽とロマン派の狭間に
～ベートーヴェンとショパンの音楽を通して～」

横浜シュタイナー学園を卒業するにあたって

2018年3月18日(日)、第5期生・神田ひとみクラスの14名は、横浜シュタイナー学園を卒業しました。9年生になってからは、いろいろな行事に“最後の〇〇”と修飾語が付くようになり、そしてその集大成である卒業プロジェクト発表会とオイリュトミー発表会が3月上旬に開催されました。横浜シュタイナー学園を卒業するにあたって避けて通ることができないこの2つの発表会を見終わった今、少し振り返ってみることにしました。

卒業プロジェクト発表会は、3月3日(土)と4日(日)に行われました。カラクリ時計の発表では、振り子の1周期にかかる時間はいつでも同じと仮定し、その動きを秒針の動きに変換し、さらに秒針の1/60のスピードで進む分針も歯車で調整させていく過程の計算や、実際に作成した工作技術の発表には、思わず「ブラボー」と声をあげてしまいました。ブラボーといえば芸術に関する発表が4題あり、体調の関係でタイの踊りの一部分だけの表現でしたが、その一瞬の動きでもタイの踊りの特長を捉えた発表、照明によって観客の感じ方の違いを実演で見せてくれた発表がありました。ピアノに関する発表では、身近なピアノという楽器について私は新しい知識を増やすことができました。また、これから先何かの機会にベートーヴェンのピアノソナタ「悲愴」やショパンのエチュード「革命」を聴く時には、今回の発表の情景を必ず思い出すと思います。他には茶道を通して“わびさび”を教えてもらい、昼休みには抹茶を一服いただくという嬉しいオプショもありました。(でも実際に私がいただいたのは、人数の関係で発表者が点てた物ではなく、助っ人に入った息子が点てた物をいただくという想定外の出来事がありました。)

また2日間を通して多かったのが、宇宙を含む歴史を通して“生と死”に関する問題を扱った発表だったと思います。卒業プロジェクトの題材を選ぶ時は、自分の好きなことや身近なことなど何でもよかったと思うのですが、民族問題、南北問題、戦争や核実験という大人でも難しいテーマを選択し、書物から調べただけの発表に留まらず、そこから自分がどう思うのか、どう考えるのかと発展させた発表になっていました。その内容の濃さに聴衆の先生や保護者が刺激されたのか、質疑応答のやり取りがまるで、大人のワークショップの場に居るような錯覚をしてしまいました。毎年そうなのですが、生徒たちの発表を聞き終わった後に心の底から「15歳にしてこの内容! あっばれ!」という気持ちが味わえるのは、横浜シュタイナー学園に通わせている親の特権ではないかと思っています。

そんな余韻が残っている状態で、“終了の会”、“オイリュトミー発表会”が行われる3月17日(土)を迎えました。終了の会では、いつものように1年生から順番に発表があり、学年が上がるにつれて、“遊び”から“演技”そして“芸術”へと変化するのを感じられました。ピアノとファゴットの音が響き渡った9年生の発表では、圧倒的な貫禄にうなされました。でも長男が9年生の時の神田ひとみクラスはまだ5年生で、その時はたどたどしい演技だったと思うので、年月を重ねれば必ずちゃんと成長するのだなとも思いました。

オイリュトミー発表会では、新品のオイリュトミードレスとヴェールをまとった14名の子どもたちが、音楽に合わせてステージを所狭しと動き回りましたが、激しい動きでもヴェールがあるためか優雅に見えました。14名のドレスとヴェールの色の組み合わせは全員が違うので、まるで宝石箱をひっくり返したような綺麗な色合いでの発表でした。特に感心したのは、全速力でのバックの動きでもぶつかることはなく、綺麗に踊っていたことです。このテクニックは今までの9年間の経験の賜物なのでしょう。子どもたちは大変かもしれませんが、この発表がもっと続いて、もっと長く見ていたいと感じました。

そしてその翌日はついに卒業式。午後からのお楽しみ会の一番終わりに、元クラスメイトも飛び入り参加し、肩を組みあって晴れ晴れとした顔(泣き顔)で合唱している子どもたちの姿や仕草を見ると、この学校に通わせて本当に良かったなとつくづく思いました。

最後になりましたが、神田ひとみ先生、そして多くのお世話になった先生方、本当に9年間ありがとうございました。この9年間は子供も当然ですが、親も人生の中で特別な意味のある期間だったと思います。

拙い文章を最後まで読んでいただきましてありがとうございました。(5期生保護者 藤岡義史)



終了の会・卒業を祝う会

3月17日(土)らぽーる横浜にて終了の会を行いました。横浜シュタイナー学園では、学内において一学期ごとに各学年の日ごろの学びを披露する会、「月例祭」を行っており、三学期末の会を「修了の会」と呼んでいます。低学年から高学年までの児童、生徒が一同に会し、日ごろ積み重ねてきた学びを披露しあうこの集いは学外の方々にも公開して行いました。同日開催された「卒業を祝う会」は学内のみの行事として、翌日卒業する9年生の卒業を全学年児童・生徒、教員、保護者、関係者で9年生が1年間かけて練習を重ねた卒業オイリュトミー発表を観覧し、成長・卒業を祝いました。



1年生 英語 歌と詩
中国語 朝の歌、詩、あいさつ他



2年生 担任 運動遊び、円になって踊る
オイリュトミー 太陽の讃歌



3年生 担任 お手玉、歌「風車」
音楽 歌「雪のおどり」



4年生 音楽 歌、笛、カンテレ
「Alle psallite」「高き天より我はきたれり」
中国語 三字経



5年生 英語 頭韻の詩、
歌「Grandfather's Clock」他



6年生 オイリュトミー
「あふれる泉のそのように」
「トルコ行進曲(モーツァルト)」他



7年生 笛「戦いのパヴァーヌ」
体育のステップを歌ローリングホームにのせて



8年生 英語 歌 「Music is My Life」
「Turn, Turn, Turn」「心の瞳」



9年生 音楽 合奏「おもちゃの交響曲」
合唱「あなたへ」「群青」

卒業を祝う会 卒業オイリュトミー発表



インフォメーション

2019年度入学説明会

2019年度の入学・転編入募集の詳細は4月中旬以降に学園サイトにて公開いたします。

「アースデイ」に出展します

関東3校のシュタイナー学校合同で、アースデイに出展します。是非家族でいらしてください。

日にち:4月21日(土)・4月22日(日)

時間:10:00~17:00

会場:代々木公園

詳細は「アースデイ」サイトをご覧ください。

【自由への曳航(えいこう)】～ 続・ルポ「シュタイナー学校の1年」～好評連載中です

2012年4月から2013年3月まで横浜シュタイナー学園の教育取材したルポルタージュ「シュタイナー学校の1年」。

その続編「自由への曳航」最新3話分を、学園WEBサイトで公開しています。ぜひご覧ください。

■最新号:3月15日更新

第10話

ブラックボックスを体験する
=コンピューター

ご支援ありがとうございます

(順不同・敬称略)

～よこはま夢ファンドを通してのご支援～

2017年12月1日～31日

山口徳行、尾上浩一、中島憲次、齊藤穰、豊島洋子、上田豊、福元晃

～ご寄付～

星の金貨、加藤洋子、よこはま教育の会土曜クラス、医学講座有志

皆様のご支援に、心より御礼申し上げます。

星の金貨



スクールショップ星の金貨では、文具類の他、季節のポストカード・虹染め布・木工品・編みぐるみ・書籍などを取り揃えて皆様をお待ちしております。どうぞお立ち寄りください。

お問い合わせ

e-mail:hoshi-kinka@freeml.com

ブログ

<http://hosinokinka.blog100.fc2.com/>

◆YSG メールマガジン配信中

公開講座やイベント開催など、学園のさまざまなトピックをいち早くメールでお知らせします。

ご希望の方は学園WEBサイトよりご登録ください。

お問合せ、お申込み先

横浜シュタイナー学園事務局

Tel&Fax: 045-922-3107 e-mail: gakuen-info@yokohama-steiner.jp

【会費・ご寄付等お振込先】

郵便振替: 00260-0-130702

加入者名: 特定非営利活動法人横浜シュタイナー学園

ゆうちょ銀行: 店番029 支店名029店(せのりわり店)当座0130702

横浜シュタイナー学園

Newsletter 第109号

2018年3月27日発行

編集: 広報の会

発行: NPO法人 横浜シュタイナー学園

<https://yokohama-steiner.jp>

〒226-0016 横浜市緑区霧が丘3丁目1-20

TEL/FAX 045-922-3107

※掲載内容の無断転載をお断りします